

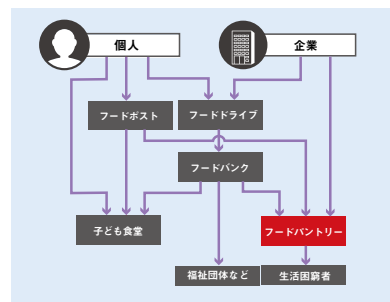


1世帯ごとにカゴに分けられた食材を、利用者が袋に詰め持って帰ります。「生活に困っているの、こうした取り組みは本当にありがたいです」と利用者は話します。



フードパントリー

食の支援を通して 隠れた課題を見つける



人と人とを食べ物で繋ぐ
 フードパントリーは、経済的困窮により食料支援を必要としている方に、直接食品を提供する活動です。「パントリー」とは、「食料の貯蔵庫」を意味します。
食料の提供だけではない支援
 現在、市内では、児童扶養手当等受給世帯を対象に、11月15日現在で3つの団体によってフードパントリーが運営されています。また、活動拠点が地域に根ざしていることから、食料の提供だけでなく、会話や相談の中で「地域の隠れた問題」を発見できる場合もあります。発見した問題は、孤立の解消や相談窓口、学習・行政支援へ繋ぐなど、新たな支援の輪を広げる役割も、フードパントリーは担っています。

貧困は身近で起きている。



一般社団法人「みんなのいえ」
 まちだだい き
 理事長 **町田大樹**さん

元は子ども食堂として活動していましたが、コロナ禍で思うように開催できていなかった時、フードパントリーを知り、昨年の9月から始めました。「家族でご飯を食べる時間ができて笑顔が増えました」とか「少し前を向けるようになりました」といった声を聞くと、始めて良かったなって思います。よく、「なにかできることはありますか」という声をいただくのですが、まずは多くの人に現状を知ってほしいです。僕もね、始める前は貧困のこととかは他人事だったんです。どこか遠くの田舎のことくらいに思っていました。でも実際は想像以上に身近なことなんです。それを皆さんに知ってほしいですね。



市内の高校生に、現状を話す町田さん。

フードパントリー/子ども食堂
みんなのいえ

詳細は
 みんなのいえHPへ!

